

令和3年3月30日

千代田区長 樋口高顕 殿

(写) 千代田区議会議長 小林たかや 殿

千代田区都市計画審議会会長 岸井隆幸 先生

千代田区環境まちづくり部まちづくり担当部長 加島津世志 殿

要 望 書

日テレ通り沿道には地区計画によって建物の高さを最高60メートルまでとする制限がかかっておりますが、日本テレビ放送網株式会社（以下、日テレ社）からこれを超える高さのビルを建てようとの提案が区当局に提出されようとしていると聞き及んでおります。この提案は、都市計画法の都市計画提案制度を用いて、地域への公共貢献の見返りとして既存の都市計画制限の緩和を認める再開発等促進区の適用を想定したものと理解しております。

私共は、日テレ通りが整備され、利便性が高まることには、賛同いたします。この事は、2ヘクタール近い広大な土地において、現行の地区計画の範囲内で十分可能であると考えております。住宅街・文教地区である番町の環境を守ることは、住民のみならず番町内の小中高等学校の児童・生徒・保護者の強い要望でもあります。特に、近年日本にやってくる台風の勢力が強大化する傾向が顕著であり、ビル風の影響は一層懸念されると思います。是非とも番町の環境を劣化させる事がないようにまちづくりを進めていただきたく存じます。

日テレ社側は、有楽町線麴町駅番町側出口をバリアフリー化するためのエレベーターとエスカレーターを設置することと、災害時の避難場所や地域のお祭り等に利用できる広場を設置すること、歩道の拡幅などを公共の利益への貢献として挙げる意図であると理解しております。しかしながら、バリアフリー化は地下鉄の出口近くにビルを建設しようとする地権者・ディベロッパーならば、ビルの商業的価値を高めるために必要な設備として当然に設置するものでありますし、災害時の避難場所としては番町地域に多くの学校の校庭や体育館があります。むしろ昼間人口を大きく増加させるような再開発を行うことこそが、災害時の帰宅困難者等を多く発生せしめる原因となるのではないのでしょうか。地下鉄麴町駅のキャパシティーは限られており、ラッシュ時に一層混雑することも懸念されます。また、お



祭り等の年に1回から数回くらいのイベントであれば、日テレ通りを銀座通りのように交通を遮断して利用すればかえって大きな盛り上がりが見込めると期待できると思います。ご高承のように、銀座は毎週銀座通りを歩行者天国にして大成功しております。しかしながら、住宅街・文教地区である番町を過度に繁華街化しようとするのは、本末転倒であります。適度な賑わいを実現するという観点に立てば、歩道の大幅な拡幅等も不要であります。

私どもは、株式会社である日テレ社が保有不動産や新たな不動産投資について、そこから得られる利益を極力増大させようとする経営努力は十分理解できます。しかしながら、その努力は地域の特性を考慮して定められている地区計画の範囲内でなされるべきであります。個別企業の利潤追求のために、現存する地区計画が変更されるようなことはあってはならないと考えます。また、東京という地価の高い地域での土地の高度利用を計ることが求められていることも十分認識しておりますが、これも地域毎の特性をよく考慮して行われるべきものでありましょう。かつては千代田区の定住人口が減少の一途をたどり、人口増加が区政の大きな課題であった時期もありましたが、現在はかなり人口が増加して区内の小・中学校がすでに一杯の状況になっており、これ以上の住居の増加は大きな問題を招来するおそれがあるのではないのでしょうか。

こうした観点から、私どもは番町地域の特性に鑑み、かかる再開発等促進区の提案を認可しないよう要望いたします。

番町の町並みを守る会 共同代表

茂 木 七左衛門

中 原 秀 人

大 橋 智 子

山 本 光太郎

堀 義 人

橋 本 百 合